



対談

多様な文化を地域社会の財産に

姜 誠／寺脇 研4

特集「社会の宝」として 子どもを育てよう！

今後の家庭教育支援の充実についての懇談会報告10

▼事例紹介

- 子育て・触れ合い・学び合い＜幼稚園の取組事例＞14
- 子どもは地域で育てよう＜山形県の取組事例＞16
- お父さんパワー全開！＜ぐんま父親クラブ＞18

事例クローズアップ

- 「お母さん、カエルがいるよ、セミもいる！」
＜三菱商事株式会社「母と子の自然教室」＞20
- 山梨県明野村に響いた子どもたちの歓声＜近畿日本ツーリスト株式会社＞22
- 小学校の校庭を芝生にしよう＜NPO法人芝生スピリット＞24

ランドマーク探訪

- 【こだわり発信館】トヨタグループ産業技術記念館32
- 【わが町の十八番】東京国立博物館34

地域に開かれた学校づくり

- 屋号は『でいあ』親愛なる挑戦者たち＜宮崎県立小林商業高等学校＞38
- 授業を市民に開放する＜信州大学＞40

ふるさとだより

- 【熊本県】菊池の伝統『狂言』を子どもたちと 菊池市44

- 生涯学習論考 欲深くて気の多い私と、生涯学習 内永ゆか子52

カラー

●INTERVIEW

上松美香27

アルパ奏者

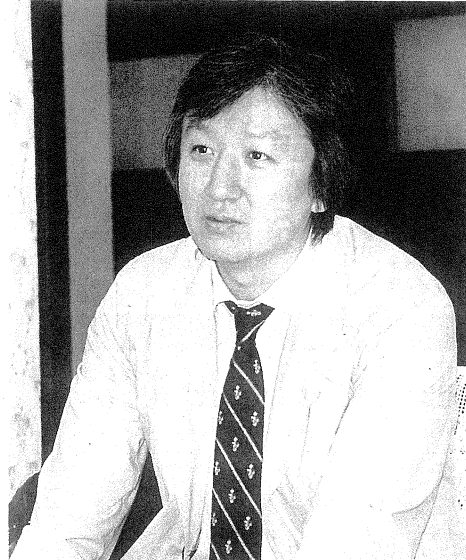
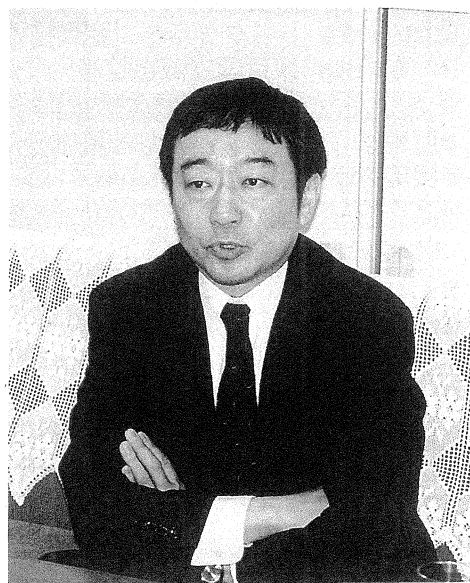
- はい！こちら㊦民間教育事業室です。26
- おはなしあれこれ31
- スポットレポート36
- 行政フォーカス43
- World Report47
- どうかい“夢”通信48
- Manabee News49
- 編集後記54

対談

多様な文化を 地域社会の 財産に

寺脇 研氏

文化庁文化部長(前文部科学省大臣官房審議官生涯学習政策局担当)



姜 誠氏

ルポライター

外国人を地域の財産にするためには

寺脇 二〇〇二年ワールドカップサッカー大会でご活動になられたきっかけからお話いただけますか。

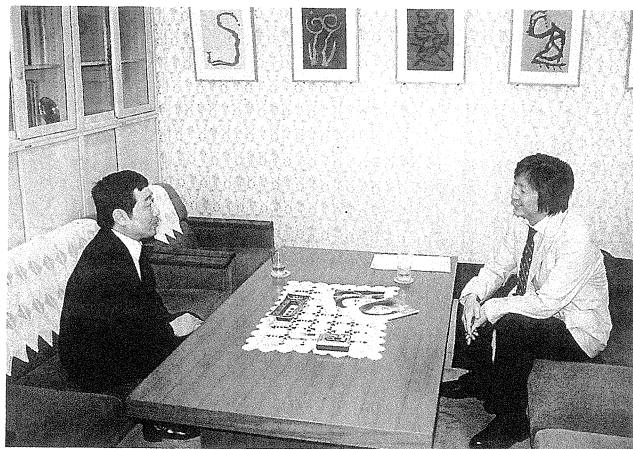
姜 セルジオ越後さんたちと話している時に、日本人が大会を成功させるために一生懸命頑張っているから日本に住む外国人も何かやるよということになったんです。けど何をやらなければならないかわからない、そんなときに石原東京都知事の三國人発言がありました。発言に対

しての批判の声がある一方で、僕たちは単に批判すべき問題と受け止めるのはやめようと。確かに外国人の犯罪は増えていますし、日本の人々が不安に思うのは当然だと思ったのです。お互いの顔が見える関係にするためには、外国人の側から日本人の文化にラポールを送らないうと地域のセーフティネットにはならないだろうと思っただけです。そのためには、サッカーが一番ワールドワイドだし、平和の祭典でもあるし、ということで本格的に動きだしたんです。

寺脇 正直言って、私はサッカーはそん

なに詳しくないし、ましてこれまでは、ワールドカップといえばテレビで見たことがあるくらいです。それでも何かをやるという人たちが行政がお手伝いできたらということ、姜さんの取組に色々な省庁の役人も協力したのですね。

姜 色々なサポートを受けて本当に感謝しています。このボランティアも、僕たちだけでやったと思われるかもしれませ



んが、日本の友人たちの物心両面にわたるサポートがあったからです。それがなければ多分できていないと思います。寺脇 私は、ワールドカップが目前に迫ってくるにつれ、これは単なる国同士のスポーツ対戦ではない、自国と他国というものを意識はするものの、それはナショナルリズムに凝り固まるものではなく、サッカーを通して色々な国の付き合いの形があることをわからせるものではないかと感じました。今までは外交のパワーゲームや戦争によって国や民族の関係が形づくられてきたけど、それ以外の方法もあるのではないかと思うことができたんです。サッカーという世界共通のスポーツで、国同士の新たな関係を構築することができるかもしれない、少なくとも二〇世紀の日本では考えられなかったようなことが起こり始める前兆ではないかと感じています。

姜さん自身は在日コリアン三世として日本で生まれ、日本で暮らしていらっしやる。そのことを捉えて、「それじゃあ日本人と同じじゃないか」という素朴な誤解に出会うことがあるに違いない。今度はその誤解をいっばい逆手にとって、「在日外国人も日本人も違和感なく一緒にやることのできるのではないか」という呼びかけに持っていけたのだと思います。

姜 このボランティアを通じて、日本人たちが外国人も地域の資源だということに気づいてくれたらと一番に思っただけです。外国人の方が生活も不安定ですし、なかなか自己実現ができない部分があるので、社会の不安定要因に見られることもあると思います。僕はそれは個人の資質というより社会のシステムとか制度の問題だと思っています。その点、今回一〇都市で異文化の激突を体験したことは、とても良かったと思います。中津江村のカメルーン遅刻問題もその一例でしょう。そういった時にこそ、定住外国人

定住外国人ボランティアについて

二〇〇二年ワールドカップサッカー大会開催を控え、日本に住む外国人が「自分たちにも何かできることはないか」と平成一三年九月に結成したのが「定住外国人ボランティア」。三〇か国五五〇人の参加者を集める。活動としては、開催自治体と連携してスタジアム外での通訳や誘導、救護ボランティアのほか国際イベントにも参加。ボランティア発足にあたり、東京を中心に三〇〇五〇人程度の呼びかけ人を選定しており、サッカー解説者のセルジオ越後さんや映画プロデューサーの李鳳宇さんが名を連ねる。

不条理をなくすことが歴史の進歩

寺脇 姜さんのお話を伺うと五五〇人でこういう活動をした、ということが分かります。ところが、日本人でボランティア活動をしたのは何人ぐらいだったか、どんな活動をしたのかということは全然掌握できていないんですね。

姜さんたちの活動が、組織として目鼻がついたのはいつごろからでしょうか。

姜 去年の九月からです。色んな職の方が少しずつ力を貸してくださった。それがなければ多分このボランティアはできませんし、外国人側もそれは実感していると思います。ボランティアに参加した外国人の中にも三つくらいはポリウムがあるんですよ。私のような定住者、つまり、三世四世のようなオールドカマー。日系ブラジル人を中心にしたニューカマー、それから国際結婚の混合世帯の人たちです。みんな少しずつニーズが違うんですが、外国人にとって一番大きな問題は労働と教育の問題なんです。ただ、今まで自分たちのニーズを伝えるためのパイプを持つことができなかった。だから、とにかくボランティアで汗を流して、それを認めてもらった後に、地域の行政や学校と話し合いがもてるようなパイプがほしいという切実な気持ちが根底にあり

ました。大切なのは、社会的合意を積み上げていくことです。行政は最後に絡んでくるものですから。そのための実績づくりという点で、僕はこれまで、一回も日本社会に対してラブコールを送っていません。だから、このボランティアの位置づけとしても、納税以上の貢献をしていくことによって、我々も日本人たちと等しく地域を支えていくんだという意思表示の意味がありました。地域にとっても、多様な人を受け入れるというのはとてもリスクがあつてコストがかかることなんです。そういうコストを払ってでも余りある活力やプラスがあるということとを、このボランティアを通じて地域の日本人に実感してもらいたかった。ボランティアには、地域のキーマンになる方、その地域の顔になる方も来られていますからね。

寺脇 その通りだと思いますね。つまり、これは行政だけで何とかすればいいという問題ではないんですよ。これから、「官」だけが世の中を支えているという感覚ではなく、「官」と「民」とがそれぞれ得意な分野を活かして世の中を動かしていくようになることが必要です。問題解決のためには、姜さんがおっしゃるように、自分たちも行動を起こした上でお互いが歩み寄っていくんだという姿勢が必要になってくるのではないでしょ

うか。

姜 以前お会いしたときに、寺脇さんがおっしゃったとても印象的な言葉があるんですよ。それは、「不条理をなくすことが歴史の進歩だ」という言葉なんです。今回のボランティアの根底には、外国人が日本社会に対して不条理とと思っていることがある、ただそれをストレートに出してしまつと、日本人側も受け入れにくい、セルジオ越後さん流に言えばサッカーという楽しいオブラートに包んでラブコールを投げちゃえ、と。ボールが返ってくる、こないはそれからで、返ってきたらそれに真面目に答えていくという、キャッチボールを何度もしなければ変わらなと思います。今ある距離感を柔らかく詰めていくことができればいいと思いますね。

今回のボランティアの中にも三割の日本国籍の方を受け入れましたが、良かったと思います。一緒に中にいると色んな話をするんですよ。多様な人を受け入れることが、組織の活力を生むことになりましたから。

「教育」を共通項に同じテーマにしよう

寺脇 今回、日本でも韓国でも色んな人が、記録に残らないボランティアをして

います。例えば、笑顔で迎えたり、道を案内したりとか。そういう積み重ねがとても大切なことだと思いますね。

ボランティア団体の中には、国籍はもちろん、文化も民族も考え方も違う人が集まっているのですから、多少の対立はあったと思います。それを大同団結させたのは、メンバーの心を結ぶ共通項があったからでしょうね。

姜 やはり、地域の住民でありたいということです。それがサッカーだから良かった。サッカーボランティアだからあれだけ集まって、地域の人々にすごい共感を呼んで、いい仕事ができたと思います。そうしたムードを実績として作っていく大切さを実感しましたね。

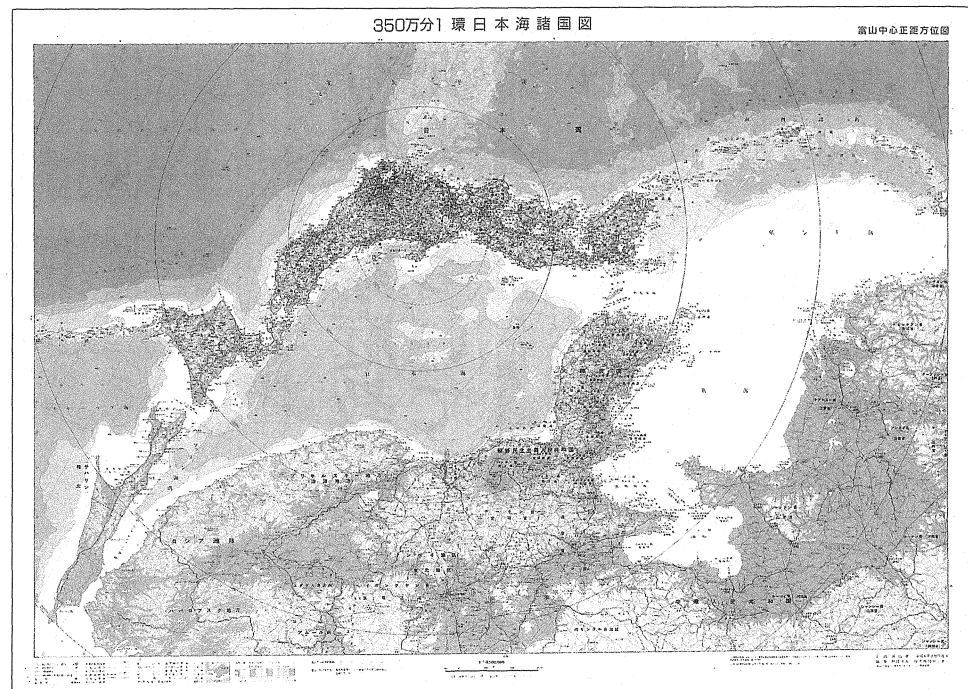
寺脇 実は私たちも同じ手法で全く別のことをしています。今年の四月から完全学校週五日制を実施していますが、姜さんたちはサッカーを「地域のかすがいい」にしているわけだけと、私はよく「子は地域のかすがいい」と言っています。子どもを育てるとか、ワールドカップを成功させるという目に見えるプラス面はあくまでも一過性のものです。大切なのは地域の中で大人たちがどのように自分たちの地域社会を作っていくかということなんです。問題は、自分の子どもさえよければそれでいい、という姿勢をどう変えていくかということなんです。

先日、とてもうれしいことがありました。今度、日本NPOセンターという団体が設立されるんです。「子どもの生命が尊ばれ、子どもの意思が尊重される」社会のために、NPO団体や市民、専門家、行政が大同団結して行動する組織を作ったんです。集まった人たちの名簿を見せてもらったら、すごく多様なんですよ。統合の象徴として、さわか福祉財団の堀田力さん（元法務大臣官房長）がいらつしやるんですが、ラディカルな人からコンサバティブな人まで、思想や活動も違う人が集まって、子どものためにこういう動きが出てきたことは、本当にうれしかったですね。

姜 外国人にとっても子どもをどう教育するかはとても大きな問題なんです。ニーズとしては、自分の受け継いできた伝統を保持しつつ、もう一方で、すでに自分たちは日本の社会の中に入っているわけだから、日本社会に寄与できる存在として生活するにはどうしたらよいか。そのためには教育以外ないんですよ。そういう社会はどうあるべきかという点で、教育を通して日本人と定住外国人が同じテーマに着ける可能性は高いわけなんです。

大韓民国・テハンミングック

姜 ワールドカップの後、京都パープル



いくと、とても色々なことが見えてくる
ということが一つ。それともう一つ、
我々の世代が東京オリンピックを体験し
て、あのとき何年生だったという会話で
話が始まるように、今の日韓の子どもた
ちがあのとときにくつだった、どうしてた
という会話が、共通の話題としてできる
ということを話しました。

この地図(上図)をいつも見ているん
ですよ。こうしてみると全然違うものが
見えてきますし、思ったより距離が近い
と思うでしょう。

姜 文化とか経済圏って内海から発生す
るじゃないですか、それを考えると国は
違いますけど、東アジアにも日韓や中国
をまたがる「域内」を作れたらいいなと
思いますよね。



PROFILE

●姜誠 (かんそん)
ルポライター。在日コリアン三世。在日コ
リアン、東アジア、日韓文化交流などをテーマ
に『現代』(講談社)、『AERA』(朝日新聞社)
などにルポを執筆。主な著書に『5グラムの攻
防戦』『誰も知らないPKO』(集英社)など。
今秋には『日本籍コリアン』(集英社新書)、
『2002共催の真実』(講談社) 刊行予定。

サンガの取材に行ったんですが、その時
ジュニア・ユースの子どもたちが、シュ
ート練習のときにバク・チ・ソンって拍
子を取りながら蹴っていたんです。子ど
もたちにとって朴智星選手は、韓国の代
表選手であり、地元のフーリーガの選手
です。子どもたちはポルトガル戦での彼
のシュートを見ていたんですね。地域の
人も国を意識しながら、国を超えた地域

を意識できたというのは、ワールドカッ
プがこんなに日韓関係を良くしてくれた
からでしょう。子どもたちのシュートを
見たときにしびれましたね。

寺脇 やつぱり、ワールドカップは単な
るサッカーの技術を競うスポーツ大会じ
やないということですね。

姜 今回の収穫というのは、この活動に
北朝鮮系の人も参加したこと。ワー
ルドカップの日韓共催ともう一つ日韓北
の共催を日本でボランティアベースで
きたということです。それをサッカー協
会の人もすごく喜んでくれました。

寺脇 日韓共同開催についてネガティ
ブに評価する人もいるけれども、それは予
想したほどには良くなかったという意味
で、関係が悪化したとは誰も受け取って
いない。マイナスになったわけではなく
て、その一方プラスになったと思ってい
る人もたくさんいるわけです。今回、何
百万という日本人が「テハンミングッ
ク」と声援を送りました。それを口に出
すことの意味を考えてみてほしい。今
まで、私たちは韓国の言葉を口に出すと
言うことをほとんどしてきませんでした
よね。「テハンミングック」は漢字では
「大韓民国」と書きます。「大韓民国」を
コリアンの言葉で言えば、「テハンミン
グック」、私たちの言う「だいかんみん
こく」とほとんど同じじゃないか、わか

るじゃないか、今まで韓国を遠く感じて
いた人たちが、口に出して叫んでみるこ
とで、同じ漢字を使って表現する近さを
感じたと思うんです。

姜 今回のワールドカップは日韓にとっ
て未曾有の体験でしたね。従来、韓国は
トルコとの親交が厚いんですよ。だから、
日本・トルコ戦では、勝ったトルコに対
して多くの韓国人が拍手をしました。だ
けど、これは今までの反応です。その一
方で、「がんばれ!」とどれだけ多くの
韓国人が明洞のまちで、トルコと戦った
日本に対してエールを送ったか、これ
こそが日韓共催がもたらした大きな変化
でしょう。長い間取材活動をしています
が、これだけたくさん韓国人が日本の
チームを応援するのはじめてでした。
韓国の若い人たちは、日本に対して
アレルギーはないんですよ。

寺脇 韓国とトルコ戦が終わったとき、
フェアに相手を称え合っていましたよ
ね。自国で開催することの良さは、そう
いうことを含めて色々なものがよく見え
ることです。今回、ワールドカップ期間
中にラジオ番組で子どもたちにワールド
カップで体験してほしいことを話したん
ですが、そのとき、私は一点挙げました。
どのチームが勝ったか、どの試合で何点
取ったかということもいけれど、その
周辺に起きたことの報道をしっかり見て

特 集

みんなでスポーツしようよ

●インタビュ
衣笠祥雄 (スポーツコンサルタント)

●事例クローズアップ
株式会社山田養蜂場
松下電器産業株式会社
NPO法人生涯学習知の市庭

●行政フォーカス
国立科学博物館

●地域に開かれた学校づくり
鹿児島県鹿屋市立寿小学校
栃木県鹿沼市立北中学校

●生涯学習論考
和田敏明
(社会福祉法人全国社会福祉協議会事務局長)

月刊 **マナビイ** 9月号

第15号
2002年9月1日印刷
2002年9月1日発行

●著作権所有—文部科学省©

●発行所——株式会社 **ぎょうせい**
本社 〒104-0061 東京都中央区銀座7-4-12
本部 〒167-8088 東京都杉並区荻窪4-30-16
TEL 03-5349-6666 (営業部)
URL <http://www.gyosei.co.jp>
●印刷所——ぎょうせいデジタル株式会社

定価600円 [本体571円] 〒76円

年間購読料7,200円 (税・送料込み)

・ただし、増大号、臨時号の場合は別に代金を申し受けます。
・なお、購読のお申し込みは直接営業所またはよりの書店にてお願いします。

●本紙掲載のうち、意見にわたる部分については、それぞれ筆者個人の見解であることをお断りいたします。
●添え付けのハガキでご意見、ご要望等をお寄せください。

◆ 編集後記 ◆

田舎に帰省する度に思います。当たり前のように周りにいたはずのとんぼ、蛍、カミキリ虫などはどこに行っただろう。縁側の戸を開け放しにしているだけで、まるで自分の縄張りのように悠然と飛んできたオニヤンマは一体どうしたんだろうと。

そして、水切りをしようと子どもと一緒に適当な河原を探しても、まんべんなく護岸工事が施されていて、その水辺に降りる場所がなかなか見つからず、大汗かいて一苦勞です。

なくして初めてわかるありがたいものを一つでも二つでも子どもたちに見せたい・体験させてあげたい、そう実感した父親の夏休みでした。 (T.Y)